

お世話になります!

アイサスのお仕事

クライアント突撃レポート

アイサスのナビゲーター(案内人)がinformation bridgeをご利用頂いたお客様のもとへお伺いし、対談するコーナーです。

一般社団法人山梨県建設業協会様 X 株式会社アイサス



Navigator

株式会社アイサス
代表取締役
百成公鋭

一般社団法人
山梨県建設業協会
副会長・林務部会長
丹澤淳人様

一般社団法人
山梨県建設業協会
業務部・業務部長
山本憲一様

百成 今回は山梨県建設業協会の取組みと、けんせつ小町甲斐についてインタビューをさせていただきます。はじめに、けんせつ小町甲斐設立までの経緯を教えてください。

山本様 平成28年、国が女性活躍の政策を出した時に、山梨県建設業協会青年部会で、山梨県の建設業で働く女性を集めて「語る会」を行いました。そこで女性同士のネットワークが大事だという結論に至ったこと、女性推進の会発足の提案を受けたことにより、「けんせつ小町甲斐」を設立しました。

百成 小町甲斐の設立にあたり、苦労した点はどこでしょうか？

山本様 一番困ったのは、女性技術者を集めようとした際に、当時は山梨県に女性技術者が見当たらない状況でした。そのため、少し幅を広げて事務や専門工事業者で働く女性にも声をかけたりして、建設産業に携わる女性を集めることが一番大変でした。

百成 他県でも事務職の女性を集めているところがありますね。建設業で女性が働くうえで何が不足していると考えますか？

丹澤様 女性が建設業に入りやすいために何をするかよりも、まずは、男性が働いている環境を変えなければ女性は目を向けないだろうという持論は持っています。例えば昼休みに作業員の方がシートを敷きご飯を食べ、道路横で休憩している状況では女性は入りたいたいと思いませんよね。その部分で発注者は“作業員休憩所を設けなさい”と我々の方に歩みよってきているし、男女とらわれない製造業と同じレベルまで建設業を持っていかねばいけないというのは協会としても進めています。それがある程度のところまでいった段階で次は女性に特化し、女性が入りやすい環境に整えていく、そういう風に進めていきたいと思っています。

百成 男性、女性とも気持ちよく働ける現場を作ることが必要ではないかという気はしますよね。女性の産休・育休について、山梨協会様はどのようなお考えでしょうか？

山本様 協会として皆様に道しるべをとというのも大事ですが、女性が、”この会社で女性として活躍できる。そこには会社の

手助けがあり、産休・育児から復帰した後、いつでも戻ってこれる環境があった”ということ発信することで、今度はそれを聞いた会員企業さんが、そういうことをサポートすれば女性が活躍できる場があるんだ。ということを感じられるのではないかと思います。協会ではそういうロールモデルがあるということ発信していきたいです。

百成 山梨県では i-con の取り組みは進んでいますでしょうか？

丹澤様 270、80の会員がいますが現在i-conに取り組む企業がどのくらいいるかというかなり低いですね。国交省工事をしている会社では必然的にやっていますが、県工事で小規模ランクの工事だとなかなか取り組みづらい部分があります。ですが、そういう方たちは、電子小黒板を使っていたりします。i-conの最終的な目標位置は同じです。大きい会社はいきなり3Dや3次元、マシンガイダンス・コントロールから入りますが、山梨県は現場条件として出来ない現場が多いんですよ。ですので入り込みやすいところから取り組むのが大事ではないかと思えます。そしてやってよかったなと思えるものになってもらいたいですね。

百成 最後に、けんせつ小町甲斐の今後の展望を教えてください。

山本様 建設業界で働く女性にもっと入っていただき、ネットワーク力を高めていきたいです。受発注者も含め、個人、企業、組織、各々にネットワークがあり、そのネットワークを日常で多発的に使う中で、どこかの部分が必ず繋がると思っていますので、そこでネットワークの広がり期待しています。また、小町甲斐に救われた若いメンバーの話聞いた時に、この活動は若いメンバーを支えることにも繋がっているんだと思いました。女性同士が親しみ、情報を共有し、小町甲斐にいるからこういう話を知った、聞けたということが1つでも増えれば良いなと思います。必要な情報をメンバーに紹介できるように、更に小町甲斐を大きな力として建設業界全体で盛り上げていけたらと思います。

百成 ありがとうございました。